

Casper approach に出会って

—当センターでの取り組みと課題（第1報）—

理学療法士 荒川 依子
作業療法士 望月 英里沙、他

キーワード：シーティング・新しい取り組み・アンケート

【はじめに】

当センターではシーティングの一手段として、村上¹⁾の提唱する Casper approach（以下 Ca）を取り入れている。Ca とは、主にモールド型で作製したバックサポートにもたれるようにすることによって、頭部～肩甲帯の垂直軸をつくり、頭部コントロールや日常の活動が行いやすい姿勢を椅子上で提供するものである。当センターで導入し始めたのは H20 年頃であり、翌年からは業者によるモールド採型も可能となった。現在は 1 回/3 ヶ月の頻度で勉強会も行っている。

今回は、Ca がどのような目的で導入されたか、その目的は達成されたのか、更に Ca で作製された椅子に対しどのような事が利点・欠点と感じられているのかをアンケートし、まとめたのでここに報告する。

【対象】

H20 年 4 月～H23 年 6 月の期間に、Ca を元に椅子を作製したセンター利用児 24 名に関わる PT・OT・ST 担当（以下担当）と家族の 39 名。対象児の内訳は CP14 名、West 症候群 4 名、MR4 名、その他 4 名。24 名中、13 名が未定額、19 名が座位未獲得。側彎を有する者は 15 名。

【方法】

2 種類のアンケートを対象者に依頼した。

アンケート I

担当を対象に、導入目的とその達成度を「達成した・まあまあ達成した・変わらない・悪くなった」の 4 段階評価で回答してもらい、比率を算出した。

アンケート II

担当と家族を対象に、Ca の椅子について①利点②欠点をそれぞれ自由記載で回答。類似した項目はまとめ、複数回答も含めた。

【結果】

アンケート I

目的に対する達成度は、回答件数と達成した+まあまあ達成したの比率を記載する。

不良姿勢の改善（27 件：100%）、目的的な上肢操作（20 件：85%）、過緊張軽減（18 件：88%）、側彎進行予防（9 件：0%）、安全な摂食場面の提供（7 件：100%）、安定した座位（4 件：100%）、呼吸改善（2 件：100%）などであった。

アンケート II

①利点：回答総数 99 件。摂食機能向上（17 件）、上肢操作能力向上（16 件）、不良姿勢・変形への対応可能（14 件）、リラックスして座れた（14 件）、母親が満足（8 件）、呼吸改善（8 件）、適宜調整可能（5 件）等。

②欠点：回答総数 82 件。作製時間を確保しにくい（10 件）、成長対応が頻繁（10 件）、椅子の使い勝手の問題（9 件）、外来児の使用状況の把握困難（7 件）、椅子が大きい（6 件）、移乗し難さ（5 件）、通気性が悪い（5 件）等。

【考察】

I の結果より導入目的の達成率は高く、Ca は座位保持としての機能を果たしていると考えられる。目的も頭部・姿勢コントロールの未熟さや変形故に課題となっていたものが多く、そのような児にとって今回作製した椅子は有効であったと考える。II-①の結果から、導入目的と利点はほぼ一致しており、更に目的以外の利点も多数あることが示され、Ca を導入するメリットは大きいと感じている。唯一、側彎進行予防という点については、今回の結果からは Ca の有効性は示せなかった。

II-②の欠点は今後の課題となる。成長対応や移乗・通気性の問題等モールドならではの欠点については、導入当初はモールド型の扱いが少なく、欠点を予測できず作製したケースも多かった。しかし、今回の結果に基づき、今後は欠点を予測した上での作製を選択できると考える。また、業者の協力や採型器により、評価や調整時間も以前より短縮されてきてはいるが、身体機能が日々変化する児に対する調整頻度が多いことも事実である。

今後は、身体機能変化に対する調整時間の確保や個々のシーティング技術向上を、センターのシステムの中でどう体系化していくかが、Ca を継続して取り組む上でのポイントとなると考えている。

参考文献: 1) 村上潤. 生活を豊かにする姿勢づくり.
ジアース教育新社. 2011.7

※2011 年全国肢体不自由児療育研究大会で発表